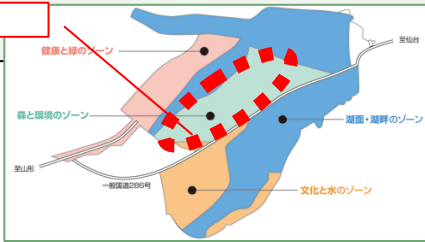




みちのく森の楽校(だより) 第5回

みちのく公園「里山地区」とは？

里山地区



公園区域の中央の釜戸湖に突き出した半島で、雑木林とスギ・ヒノキの植林地におかれた里山です。豊かで特徴的な自然環境が多く残されていることから、これらの保全・活用と適切な利用に留意しながら平成26年度春の開園を目指しています。

これまで、ツリーハウスづくり、樹林地管理や観察会など、さまざまな試行活動を行ってきました。今年度は、7回シリーズの親子会員活動を行っています。



11月30日(土) 晴れ 午前：井戸掘り 午後：隠れ家づくり

今日は第5回の会員活動です。森の楽校になかったものは水！ここで井戸掘りをする事になり、会員、ボランティア、関係者が集まって安全祈願のお祈りをしました。

活動は、第2回活動で中断していた隠れ家づくりの続きです。大体の構造はできていたので、屋根をどうしようか、壁をどうしようか、試行錯誤が続きました。

井戸掘り開始！

ボランティアの中から、井戸を掘ってはどうかという意見を受け、挑戦してみる事になりました！！井戸掘りの先生として森林インストラクター協会の佐藤さんに井戸の掘り方を教わりながら、井戸掘り開始です！



井戸掘りを開始前に、安全に、無事水まで掘ることができるようにお祈りをしました。

里山では、人力のみで行う「上総掘り」という技術を応用した形で行います。やぐらを組み、そこに吊るしたロープの先端に掘り鉄管を取付ます。ロープで鉄管を引き上げ、鉄管の重さと落下の勢いで掘り進めていきます。



始めは手で1mほど掘り進め、やぐらを組んで、井戸掘り装置をつくります。みるみるうちにやぐらが立ち上り、立派な井戸掘り装置ができあがりました！

鉄管はとても重く、一人では持ちあがりません。
みんなで協力してエイエイオー！

「森の楽校」周辺の地層は粘土層だったので、最初のうちは鉄管に粘土がつまり、掘り進めるたびに鉄管から粘土をかき出します。

今回はなんとか2m掘り進めることができました！水が出るまでまだまだ先は長そうです。



「ひつつみ」づくりに挑戦！

本日のお昼はみんなで「ひつつみ」づくりに挑戦しました！

「ひつつみ」は東北北部の郷土料理です。



小麦粉(共生園の地粉)に水を少しずつ入れながら混ぜ合わせます。粉がまとまったら、つまんで食べやすい大きさにつまみ、鍋へ入れていきます。みんなで協力してつくった「ひつつみ」はとっても美味しかったよ！



☆「ひつつみ」とは・・・

ひつつみの語源は「引っ摘む」。つまり、水でこねた小麦粉を食べやすい大きさに「ひつつんで」、だし汁の中に投げ入れて、具とともに煮込んだものがひつつみの正体。青森県南部から岩手県北部にかけて伝わる郷土料理で、「すいとん」の一種です。

地方によっては「とってなげ」「つめり」「はっと」などとも呼ばれます。



ちょっとずつ進んでます！隠れ家づくり！



午後は第2回目の活動から途中になってしまっていた隠れ家づくりのつづきをしました！骨組みを組む作業がどの班も終わり、隠れ家の壁をササの葉やスギの皮などを使って覆っていきます。

くぎ打ちも、すっかり得意になりました！



各班少しずつですが、形が見え始め、完成へと向かっています。

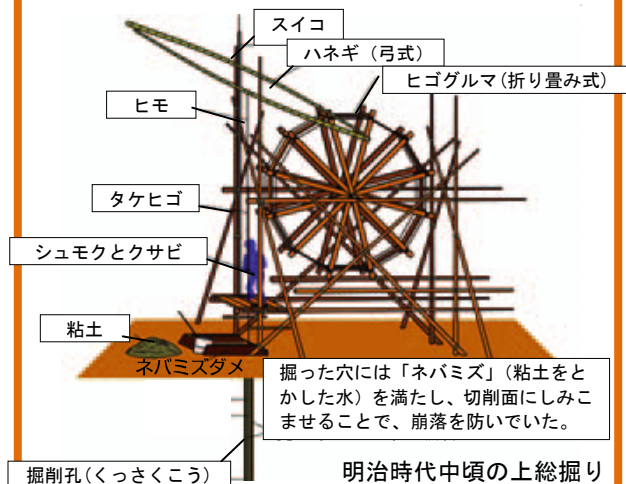
☆「上総掘り」って何だろう？

今回の井戸掘りの参考にした『上総掘り』について紹介します！

鉄棒で地面を突いて、その重力で穴を掘り地下水を自噴させる掘り方です。

江戸時代後期までは人力で作業していたので、掘るほど鉄棒の重量がかさみ、30mが限界でした。

明治時代に入り上総国（千葉県君津市周辺）で、鉄棒の代わりに桎の木の棒を使用し、竹ヒゴと鉄管を組み合わせた掘削技術や、ヒゴ車、ハネギの導入など改良が重ねられ、明治時代中頃には、5～6人の作業で500mもの掘削が可能になった現在の「上総掘り」の技術が完成したとされています。



次回の活動は12月21日「ヤナギの植え付け」と「キノコの駒打ち」です。
その次は1月18日、「冬の里山を楽しもう」と「炭焼き体験」です。